

症例報告

下顎臼歯 MTM 処置後インプラント植立し上顎前
歯部審美的改善を試みた一例

Mandibular molar of Dental implant therapy after
Minimal Tooth Movement, Next Treatment of the
Maxillary anterior aesthetic improvement: a case
report

○北田 宗敬^{1,4)}, 金井 杏奈⁴⁾, 中塚 敏弘^{2,4)},
西條 英人^{3,4)}

○KITADA Munenori^{1,4)}, KANAI Anna⁴⁾,
NAKATSUKA Toshihiro^{2,4)}, SAIJO Hideto^{3,4)}

○諏訪クリスタル歯科医院¹⁾, 恵幸堂歯科医院²⁾,
東京大学大学院医学系研究科外科学専攻 感覚・運
動機能医学講座 口腔外科学分野³⁾, 日本先進イン
プラント医療学会信州支部⁴⁾

○Suwa Crystal Dental Clinic¹⁾, Keikodo Oral &
Dental Clinic²⁾, Department of Oral and
Maxillofacial Surgery, Tokyo University Graduate
School of Medicine³⁾, Shinshu Branch of Japanese
Society for Advanced Implant Medicine⁴⁾

諸言：

第16回 AIM 総会・学術大会に本内容は報告した。

今回は、前回に加えて前歯部の審美的改善を試み、
若干の治験が得られたのでここに報告する。

症例：

患者：50歳，女性．

初診：2011年11月

既往歴：特記事項はなし．

現病歴：25年前に他医院にて左側下顎第一大臼歯を抜歯され，その時の恐怖がきっかけで歯科治療自体が中断となっていた．

処置および経過：

2011年11月から2012年4月まで歯周基本治療およびカリエス処置を行った．2012年5月から5ヶ月間にわたりMTMを行った．最初2ヶ月はアップライトスプリング法を採用，使用する装置はステンレスワイヤーを左側下顎犬歯，第一および第二小臼歯に接着し，バックルチューブ（ダイレクトボンディングシステム用スタンダード）を左側下顎第二大臼歯部頬側面に接着．後半の3ヶ月はワイヤー+オープンコイル法を採用し固定源にブラケットを装着し，ニッケルチタンワイヤー（形状記憶合金）とオープンコイルを用いた．11月にはMTM装置を外し，局所麻酔下にてAQBインプラントT5MMを植立．12月には第一大臼歯インプラント部にtemporary resin crownを仮着し，第二大臼歯のさらなるアップライトを図るため，第二大臼歯の間に歯間ゴムを1～2週間ごと装着し，その都度resin crownの遠心面にresin upして拡大した．同時に約1か月ごとに前歯部には0.5mm程

度隣接面を研磨しその都度印象採得を行い模型上で配列し SCHEU 社製 BIOPLAST1.0mm と DURAN0.5mm の 2重構造の矯正治療に使用される保定装置類似したものを作製し歯牙移動を行った。植立後 1年7か月経過したがインプラント自体には問題はなく、現在は経過観察中である。

考察

今回、われわれはインプラント治療の前処置として、MTMを応用して適切な補綴空隙を獲得した後、インプラントを植立し、同時に、前歯部の軽度な審美的改善を行ったので報告した。

前歯部は、アンテリアガイダンスで臼歯を保全し、臼歯はバーティカルストップの考えから前歯を保全する。

犬歯誘導で臼歯離開咬合で臼歯に植立したインプラントは、側方圧から守れることは周知の事実である。

しかし、臨床的にすべての症例において付与することは個性固有咬合の概念からすると現実的ではない。

今回の症例は特段、顎関節症状もなく、犬歯誘導でインプラントの長期予後を図る目的ではなかったが若干の審美的改善を図れたことと今後、他のディープバイトや歯冠高径の低いインプラント治療に今回使用した矯正治療保定装置に類似したスプリントを併用することでインプラントの生存率を高める可能性が強く示唆された。

結語

今回、MTM を選択し確保された補綴空隙にインプラント植立した後、前歯の審美的改善を試みたので報告した。